

人間健康研究科の教員の養成の目標

<人間健康研究科 人間健康専攻>

人間健康研究科 人間健康専攻では、人間が幸福かつこころ豊かに生活できるよう、人間の健康（health）と健幸（well-being）の増進を基盤として、地域コミュニティにおいて健康支援や生活支援の実践に携わり、社会に貢献できる人材の育成を目標に教員養成を行う。具体的には、高度専門職業人としての健康運動指導者や体育・スポーツ指導者の育成と、学際的かつ実践的な視野を持って人間の健康（health）と健幸（well-being）を推進する研究者の養成という教育目標のもと、（1）人間の健康と健幸に関わる研究者、もしくは高度専門職業人として活動するために必要とされる高度な知識・技能を修得し、それらを総合的かつ実践的に活用できる能力、（2）グローバルな視野に立って自ら考え、周囲の人々と円滑なコミュニケーションをとりつつ、「考動力」を発揮して社会に貢献できる能力、（3）時代の要請を常に意識し、高い倫理観を持って、未解決の課題に対して主体的に取り組む意志と能力を身に付けた、高度専門職業人としての教員を養成する。また、修士の学位にふさわしい、柔軟かつ応用力を伴った教科及び生徒指導の実践的指導力により、学校現場で対峙するさまざまな事象や課題の解決にその力量を発揮し、人間健康研究科での学術活動における積極的な対人コミュニケーション等を通じて育まれた豊かな人間性、使命感、責任感、教育的愛情により、学校内外の人材と連携しながら学校経営・学級経営等を力強く牽引していくことのできる、将来の管理職候補としての基盤となる資質・素養を育成する。

(人間健康研究科 人間健康専攻 中専修免 保健体育)

研究に必要な基本技能及び研究遂行に求められる倫理観を「人間健康研究」と「健康調査研究法」において育み、個別研究指導を通じて健康 (health) と健幸 (well-being) に関する特定のテーマについて総合的な視点から整理・分析し、研究成果をまとめるとともに、学外の施設や行政と連携し、地域とともに研究活動を行うことで、修得した知識、論理的かつ批判的な思考力、高度な研究遂行能力を実践的な課題に応用できる能力を培うカリキュラムを編成している。中学校専修免許「保健体育」の教職課程では、これらの学びの中で、修士の学位にふさわしい高度な専門性開発と柔軟な応用力をもって、(1)各種の運動の特性に応じた技能等及び個人生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようにする、(2)運動や健康についての自他の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う、(3)生涯にわたって運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養うなど、体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成できる、質の高い高度な教科体育と教科外体育の指導力を有する教員を養成する。

(人間健康研究科 人間健康専攻 高専修免 保健体育)

研究に必要な基本技能及び研究遂行に求められる倫理観を「人間健康研究」と「健康調査研究法」において育み、個別研究指導を通じて健康 (health) と健幸 (well-being) に関する特定のテーマについて総合的な視点から整理・分析し、研究成果をまとめるとともに、学外の施設や行政と連携し、地域とともに研究活動を行うことで、修得した知識、論理的かつ批判的な思考力、高度な研究遂行能力を実践的な課題に応用できる能力を培うカリキュラムを編成している。高等学校専修免許「保健体育」の教職課程では、これらの学びの中で、修士の学位にふさわしい高度な専門性開発と柔軟な応用力をもって、(1)各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする、(2)運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う、(3)生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養うなど、体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を育成できる、質の高い高度な教科体育と教科外体育の指導力を有する教員を養成する。